



ECECプロセスの質と

21st 世紀ECECカリキュラムへの示唆

Miho Taguma, Senior Policy Analyst
Project Manager of OECD Education 2030
Early Childhood and Schools division
OECD Directorate for Education and Skills



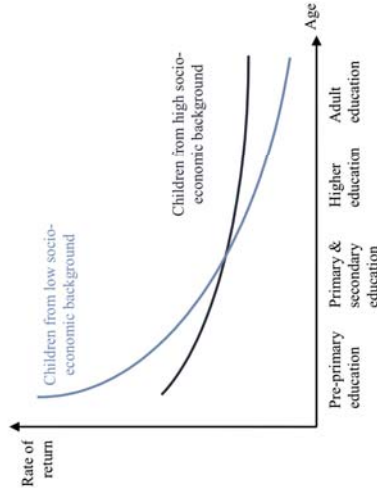
Today's focus

- 簡単な背景説明：なぜ、今「プロセスの質」？
- OECD 最新のECECレポート「Engaging Young Children」から「プロセスの質」について報告
- 21世紀コンピテンシー研究からECECカリキュラムへの示唆

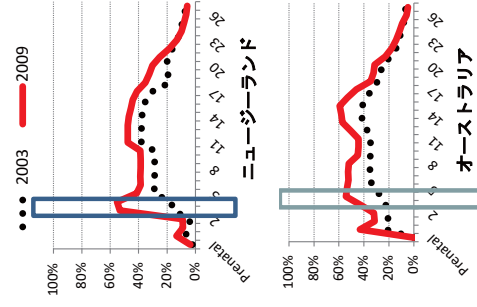


2000年代初期より、OECD諸国におけるECECの支出増

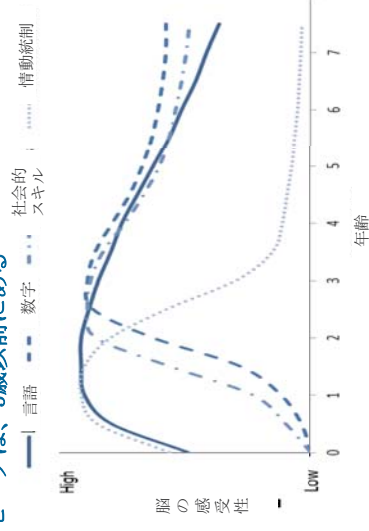
幼児教育の投資効率は、他の教育段階に比べ高い
(特に、経済的社会的に恵まれない環境にいる子ども)



Source: Adapted from Cunha et al. (2006) in Woessmann (2008), *Efficiency and equity of European education and training policies*.

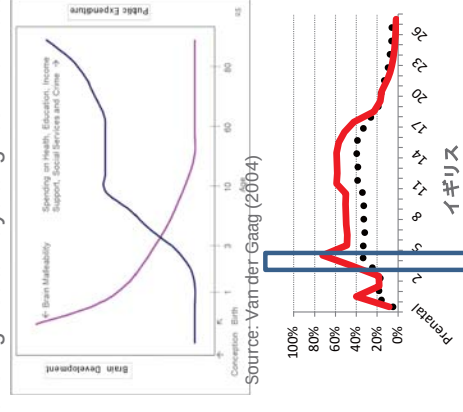


脳科学研究の示唆：脳の発達感受期のピークは、3歳以前にある



Sources: Adapted from Council for Early Childhood Development, (2010), in Naudéau S. et al. (2011).

Spending not always aligned with returns



1. 公的支出増のリターンのエビデンス

2. 経済危機・財政健全化の基、“Spending more” から
“Spending smarter” へ。エビデンスに基づく政策選択

ECEC政策における
「エビデンス」とは？

特に投資効率の高い
「質」とは？

ECEC政策研究におけるエビデンス

- メタ分析 (meta analysis)、系統的レビュー (systematic review)
- ランダム化比較実験、
- 観察研究 (横断研究、縦断研究など)
- 専門家の意見
- 現場の知見をケーススタディーなどにより構築・系統化
- 等

例) ニュージーランドからの教訓

1. アクセスへの投資 → 質の伴わないアクセスは効果低い。更に、質の低いアクセスは、長期的にネガティブな効果を及ぼす。
2. 構造的質 (例、資格) への投資 → プロセスの質が確保されなければ、構造的質への投資の効果は保証されない。

Today's focus

- 簡単な背景説明：なぜ、今「プロセスの質」
- OECD 最新のECECレポート「Engaging Young Childrenから「プロセスの質」について報告
- 21世紀コンピテンシー研究からECECカリキュラムへの示唆



SSIIよりECECの「質」に焦点： 質の異なる領域

構造的
な質

プロセス
の質

子どもの
成長の質

子どもを中心にECECの質を考えるフレームワーク
Child-centred quality framework

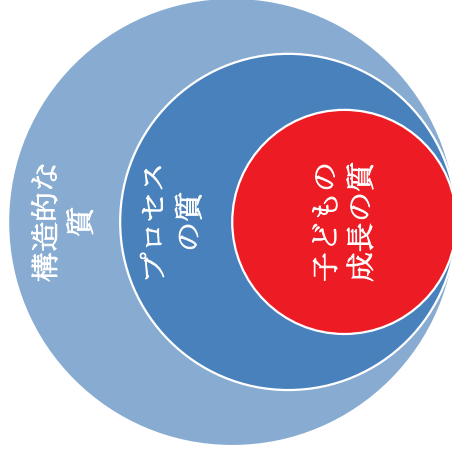
背景：

Human centred design and public sector innovations

公共セクターのイノベーション。人を中心に考える政策デザインシンキング

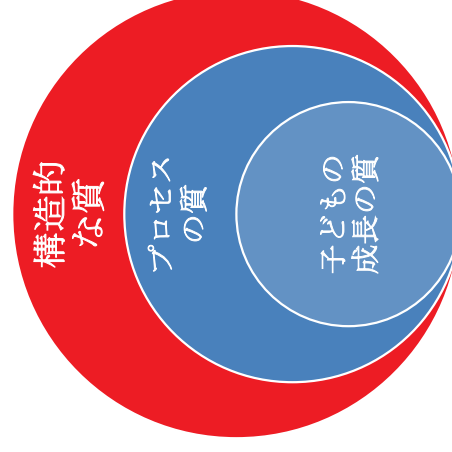
Different quality dimensions: Child

- 子どもの成長の質 質の範囲は？（発達の質、学びの質、幸福感など生活の質など）
 - 健やかな健康
 - 認知的発達（リテラシー、数的リテラシー）
 - 社会的・感情的発達
 - など



Different quality dimensions: Structure

- **Structural quality** システム / 構造の質指標（法令などで）規制され得る質の側面
 - e.g.
 - スタッフと子どもの割合
 - グループサイズ
 - スタッフの養成・育成過程
 - 研修の条件や内容
 - 資格の条件やレベルなど

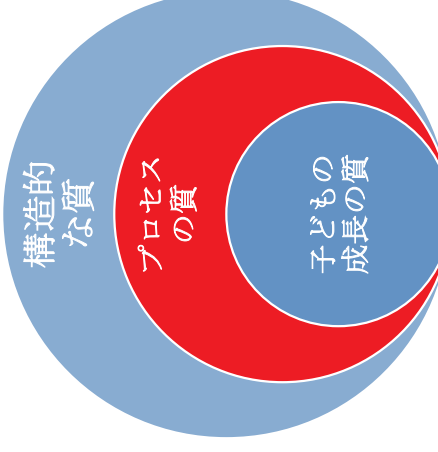


SSII I : 構造的にECCの質を保証する5つの政策介入

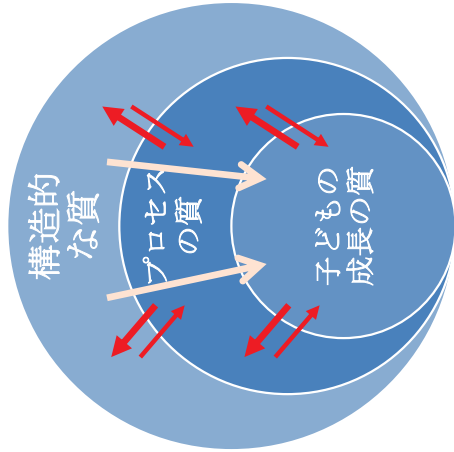


Different quality dimensions: Process

- **Process quality 過程 / かかわりの質** 指標 子どもの日々の経験（身体的、認知的、社会的、文化的、感情的）
 - e.g.
 - スタッフと子どもの関わり
 - 子ども同士の関わり
 - 子どもと周りの環境との関わり（教室、遊び場、園庭、本、おもちゃ、ロボット、園の外のコミュニケーションなど）
 - 子どもと親の関わり
 - スタッフと親の関わりなど



Different quality dimensions : それぞれの関わり



構造的質・プロセスの
質・子どもの成長の関係
性を双方向に考える

「子どもの成長とプロセスの質」から「構造的質」を考える ＜子ども同士の成長を促すプロセスの質＞を考える

子どもたちの社会情動的技能
(例: 思いやり)の発達を子ども同
士で豊かにする



どのような園長・職員の経
歴や養成歴、専門性が、
必要か



「プロセスの質」から「構造的質」を紐解く ＜子ども同士の関わりの質＞を考える

例

- 年齢を超えた子供同士の関わり → 0ー6歳が同じ施設で触れ合う、又は交流がある制度か？
- 小学生との関わり → 幼稚園・保育園・小学校の隣接又は交流ができる制度？
- 特別支援が必要な子供との関わり → 同じクラス、又は、交わる体験ができる制度か？



© Tezuka Architects



Golden Lane Campus, London, UK



OECD Starting Strong VI Phase 1 2017-2018

プロセスの質：

狭義「スタッフと子どもの関わり」

1. 基準・規制と
ガバナンス



2. カリキュラムと
実践

4. 家族と地域の
巻き込み

3. スタッフの養成・
研修と労働環境

5. データ収集と
モニタリング



<子どもの成長>とプロセスの質・構造的質の関係性 プロセスの質は、子どもの成長を保証する有力な判断材料。 (ドイツ、米国、ポルトガル)

プロセスの質指標

- 暖かく反応する
- 認知的な学びを促す
- 対立的又は放任的

双方のスキルに**関係性**が
みられる

構造的な質指標

- 資格
- スタッフ・子どもの割合
いづれも**関係性**はみられ
ない



1. 基準、規制

スタッフ・子どもの割合
グループサイズ

3. スタッフの養成・労働条件

資格
研修
職務暦

5. データ収集とモニタリング 質管理・改善制度

OECD諸国における異なる研修へのインセンティブ付け

Country/ jurisdiction	Type of setting	研修コストの補助	研修期間中の給与・カバ―	研修が資格につながる	研修が給与・昇進につながる
British Columbia (CAN)	Child care	X	X		
	Preschool	X			X
	Child care	X	X	X	
Finland	Preschool	X	X	X	
	Child care	X			
	Preschool	X			
Japan	Child care	X	X	X	
	Preschool	X			
	Child care	X	X	X	X
Netherlands	Preschool	X	X	X	
	Child care	X	X	X	X
	Preschool	X	X	X	X
Poland	Child care	X		X	X
	Preschool	X		X	X
	Child care	X	X	X	X
Slovenia	Preschool	X	X	X	X
	Child care	X		X	X
	Preschool	X		X	X
Spain	Child care	X		X	X
	Preschool	X		X	X
	Child care	X	X	X	X
Sweden	Preschool	X	X	X	X
	Child care	m	m	m	m
	Preschool				
Turkey	Child care			X	X

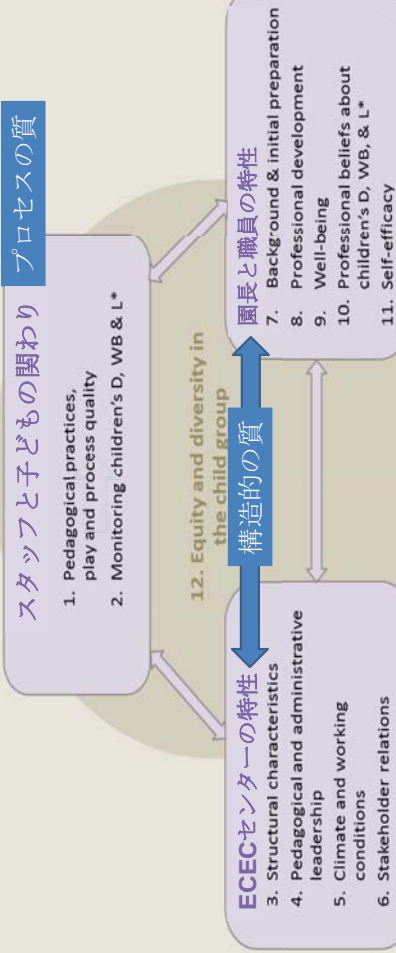
Source: Adapted from OECD (2012), Starting Strong III, OECD Publishing, Paris.

OECD 新調査：Starting Strong Survey: 2015-2020



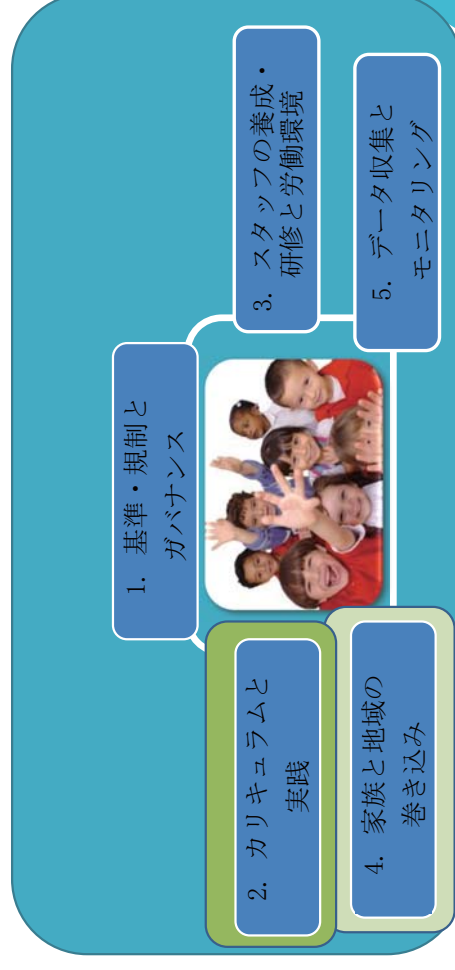
Draft Starting Strong Survey Framework

ECEC Environment for Children's Development, Well-Being and Learning



Source: Draft TALIS Starting Strong Survey Framework

OECD 新調査 : OECD Starting Strong VI: Phase 2 2019-20



Today's focus

- 簡単な背景説明：なぜ、今「プロセスの質」？
- OECD 最新のECECレポート「Engaging Young Childrenから「プロセスの質」について報告
- 21世紀コンピテンシー研究からECECカリキュラムへの示唆

OECD Education 2030 project 未来のビジョンの共創造

Q: よりよい未来を自らが創造するために、子どもたちが必要なコンピテンシーは？
特に、AIなど科学技術の発展が未踏の分野のチャンスとリスクの双方を内包する未来



「21世紀コンピテンシー議論」の落とし穴： 誤った二分法から政治的議論へ

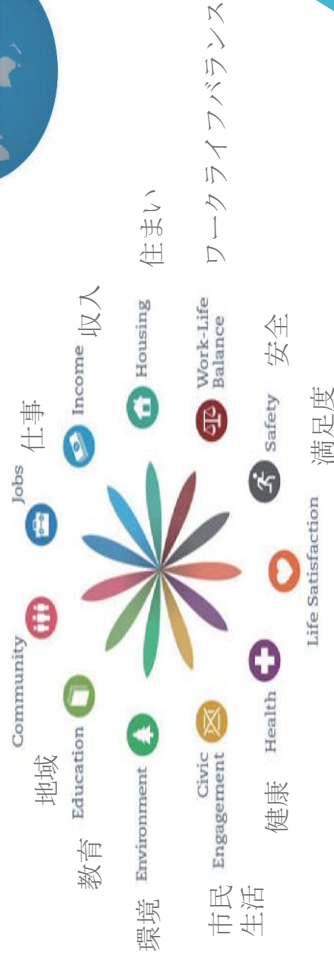
- 「コンピテンシー」と「スキル」同義？
- 「知識重視」か「スキル重視」か？
- 「基礎力重視」か「21世紀スキル重視」か？
- 「スキル習得のための教育」か「全人教育」か？
- 「雇用を確保するために必要な教育（職業人形成Education for Employment）」か「市民として社会参画するために必要な教育（市民形成Education for Citizenship）」か？
- 等

キーワード：二分法でない、直線的でない・・・
Holism, Holistic, Whole, Inclusive（包括的, 全体）

OECD E2030プロジェクト第1フェーズ
「ニューノーマル（新常态）」を導く「ニュービジョン」を共創造

OECDにおいて“成長”の意味の再定義：

- 「経済成長」から「包括的成長」へ
- 「個人」から「個人及び社会全体」の豊かな暮らしを



教育分野における 「ニューノーマル（新常态）」の動き

現制度	ニューノーマル
教育制度	エコシステムの一環としての教育制度
分業	共有責任
「インプット→アウトカム」思考	インプット→アウトカム+プロセス
learning progressionが直線的カリキュラム	“子どもの発達は、直線的でない”を体現できるカリキュラム
アカウンタビリティ（責任説明）	責任説明+質の改善
学力重視	学力+生徒の生活の質（well-being）
一律、学力評価	異なる評価目的により異なる評価を

OECD Education 2030 Learning Framework：
学びの枠組み（作業中）

枠組みの基礎となる概念：

Student Agency

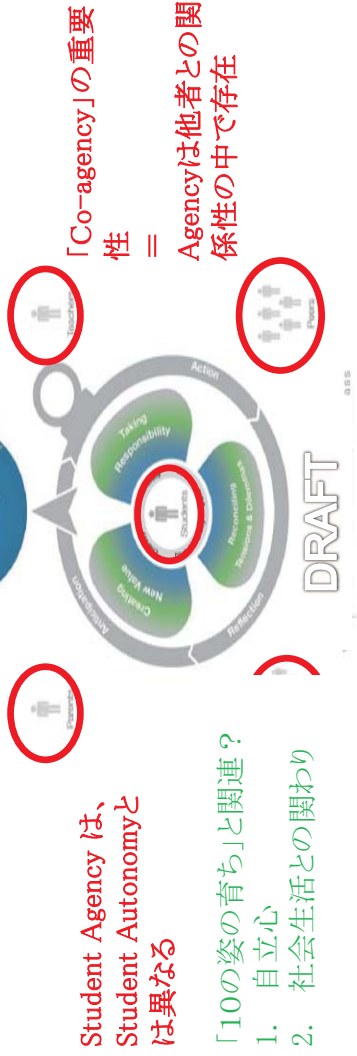
「世の中に変化を起こす力
を持つ主体」としての子ども



他者の決めたことに従う
のではなく、自ら意思決
定を；行動させられるの
ではなく行動する；
自分の未来を自らが形
作る

OECD Education 2030 Learning Framework

Work in progress



Student Agency は、
Student Autonomy と
は異なる

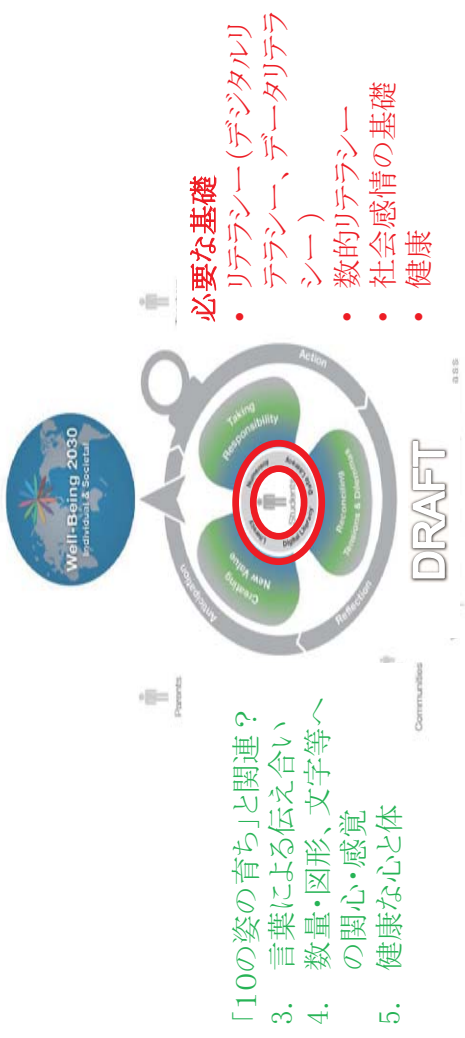
「Co-agency」の重要
性 =
Agencyは他者との関
係性の中で存在

「10の姿の育ち」と関連？

1. 自立心
2. 社会生活との関わり

OECD Education 2030 Learning Framework

Work in progress

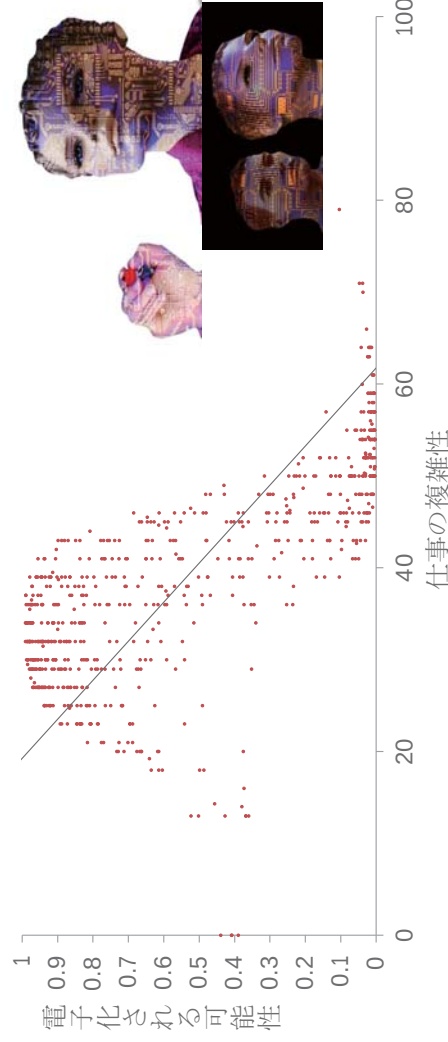


「10の姿の育ち」と関連？

3. 言葉による伝え合い
4. 数量・図形、文字等への関心・感覚
5. 健康な心と体

必要な基礎

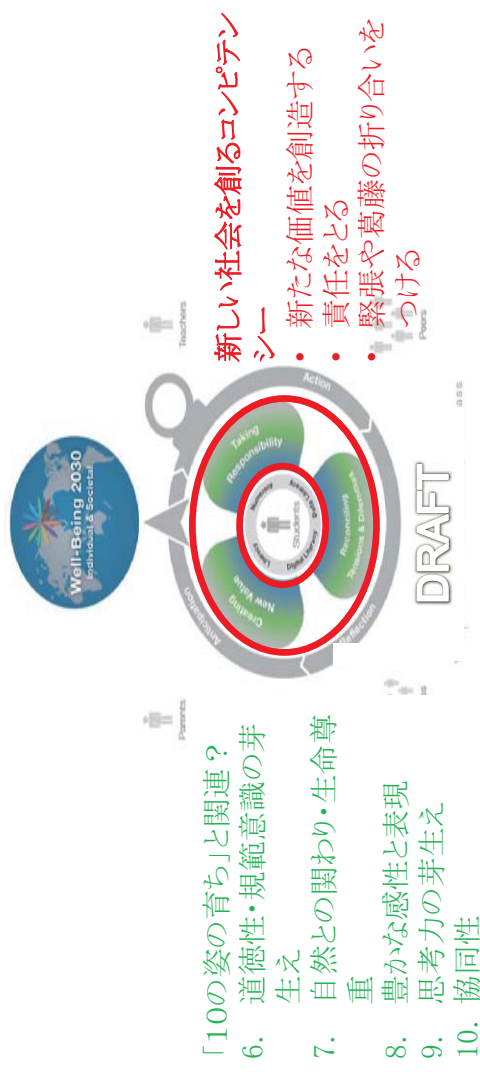
- ・リテラシー（デジタルリテラシー、データリテラシー）
- ・数的リテラシー
- ・社会感情の基礎
- ・健康



Source: Carl Benedikt Frey & Thor Berger, Oxford Martin School

OECD Education 2030 Learning Framework

Work in progress



「10の姿の育ち」と関連？

6. 道徳性・規範意識の芽生え
7. 自然との関わり・生命尊重
8. 豊かな感性と表現
9. 思考力の芽生え
10. 協同性

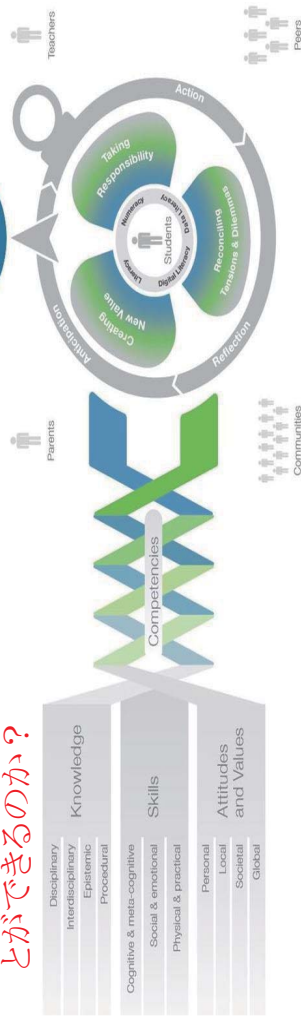
新しい社会を創るコンピテンシー

- ・新たな価値を創造する責任をとる
- ・緊張や葛藤の折り合いをつける

OECD Education 2030 Learning Framework

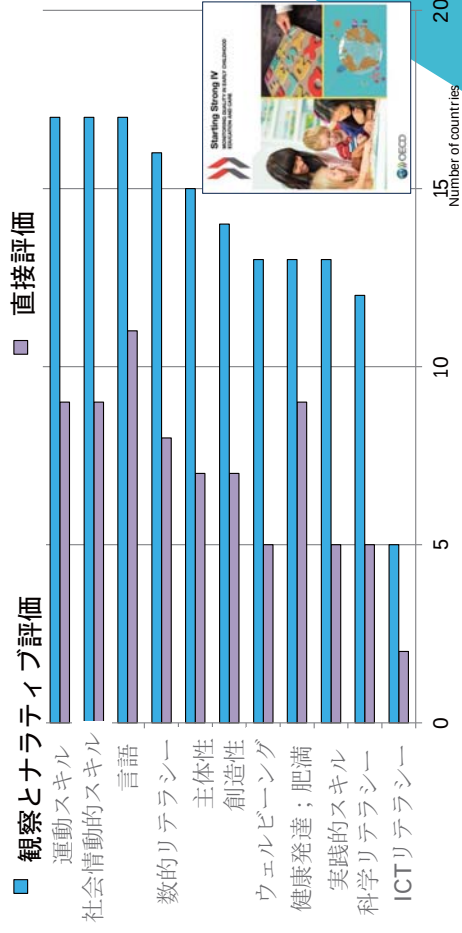
Work in progress

これらの資質能力をどうやってカリキュラムに取り入れることができるのか？



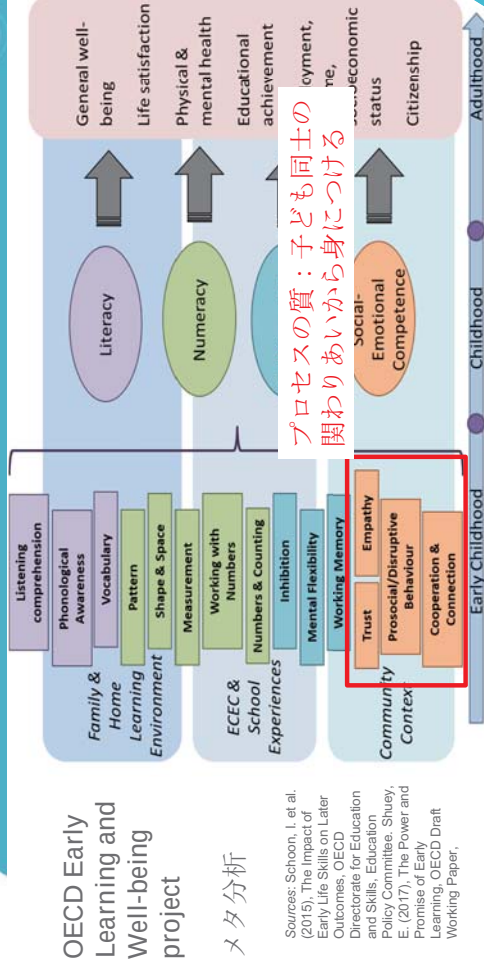
V14 | OECD Learning Framework 2030

SSIV: ECEC子どもの成長を各国どうやってモニターしているのか？



ECECへの示唆：

どういった成長の要素をカリキュラムに取り入れることが大事なのか？



プロセスの質：子ども同士の関わりあいから身につける

Sources: Schoon, I. et al. (2015), The Impact of Early Life Skills on Later Outcomes, OECD Directorate for Education and Skills, Education Policy Committee, Shuey, E. (2017), The Power and Promise of Early Learning, OECD Draft Working Paper.

Thank you!

The e2030 position paper is available here and on our website. (日本語訳もウェブ上に有)
Please visit our website: oecd/education2030

THE FUTURE OF EDUCATION AND SKILLS
Education 2030

